

## 東京 2020 大会の準備における 新型コロナウイルス感染症対応について

新型コロナウイルス感染症への適切な対応を図るため、1月30日の東京都新型コロナウイルス感染症対策本部設置以降、速やかに関係機関と連携し、取組を実施

### 1 都と関係機関との連携

- 令和2年2月3日 東京 2020 大会に向けた東京都安全・安心推進会議 感染症対策分科会を開催
- ・庁内はもとより国、組織委員会等と情報を共有
- 2月4日 組織委員会新型コロナウイルス感染症対策本部を設置
- 2月7日 政府・競技団体間の相談対応・情報提供ネットワーク設置
- ・都及び組織委員会も参画
  - ・政府・競技団体と迅速に情報を共有
- 2月13日・14日 I O C プロジェクトレビュー
- ・予定どおりの大会開催に向けて、組織委員会と I O C との連携を確認
  - ・ I O C、I P C、国、都、組織委員会、WHO 等との緊密な情報交換・共有を開始
  - ・国内外感染者の発生動向、都・国・組織委員会による対策実施状況等を共有し、意見交換を随時実施
- 3月5日 国際競技団体等関係者への情報発信
- ・大会開催に向けた I O C の方針、都、国、組織委員会による取組状況について、I O C と組織委員会の連名により、国際競技団体、各国オリンピック・パラリンピック委員会等大会関係者に情報発信

### 2 テストイベントへの対応

#### (1) 国際競技団体等主催の大会

新型コロナウイルス対策として、国際競技団体等は大会中止等を決定する一方、組織委員会は、大会開催に向け、各大会が予定されていた時期に、競技エリア・計測機器・競技運営等に関するテストを実施

##### ① 開催を保留（1件）

2月28日～3月1日 2020 ジャパンパラボッチャ競技大会

##### ② 開催を中止（4件）

3月12日～15日 2020 ジャパンパラ車いすラグビー競技大会

4月 4日～ 5日 2020 体操ワールドカップ東京大会

4月21日～26日 2020 バレーボール有明アリーナテストマッチ

4月25日～26日 アジアセブンズインビテーション（7人制ラグビー）

③ 開催を延期（2件）

4月21日～26日 FINA 飛込ワールドカップ 2020

4月30日～5月3日 FINA アーティスティックスイミング オリンピック  
競技大会 予選トーナメント 2020

④ 無観客で実施（1件）

4月11日～12日 水球チャレンジマッチ 2020 水球日本代表壮行試合

(2) 組織委員会主催のテストイベント

アスリート、スタッフ等の参加者を絞り込み、体調確認や消毒の徹底等の  
対策を講じた上で、テストを実施

3月 6日～ 7日 READY STEADY TOKYO-スポーツライミング

4月18日～25日 READY STEADY TOKYO-射撃 等

### 3 オリンピック聖火採火式等の状況

組織委員会は、3月4日（水）、聖火リレーについて、ランナーや観客等に新型コロナウィルス感染症が広がらないための適切かつ必要な対応や、実施形態は当該都道府県の状況等を踏まえ検討するとの方針をまとめた「基本的な考え方」を公表

(1) 採火式

日 時：3月12日（木）11時30分～13時（現地時間）

場 所：ギリシャ オリンピア市 ヘラ神殿・古代オリンピア競技場

内 容：巫女がヘラ神殿で採火し、競技場にて第一走者のトーチに点火

参加者：IOCや組織委員会等の関係者のみ参加。無観客で開催

(2) 引継式

日 時：3月19日（木）11時30分（現地時間）

場 所：ギリシャ アテネ市 パナシナイコ競技場

内 容：森会長、吉田沙保里さん、野村忠宏さんからビデオスピーチ、  
オリンピックの井本直歩子さんがギリシャオリンピック委員会から  
聖火を引き継ぐ。

参加者：無観客で開催。日本の代表団は渡航せず。

(3) 到着式

日 程：3月20日（金）11時

場 所：宮城県 航空自衛隊松島基地

内 容：聖火到着歓迎セレモニー、ブルーインパルス五輪シンボル展示飛行

参加者：組織委員会、国、JOC、東京都等が参加

地元宮城県の子どもたちや一般招待の参加を中止

(4) 復興の火

日程・場所：

3月20日（金）宮城県石巻市「石巻南浜津波復興祈念公園」

21日（土）宮城県仙台市「仙台駅東口エリア」

22日（日）岩手県「三陸鉄道・SL 銀河車内（宮古駅～釜石駅  
～花巻駅）及び各駅前等」

23日（月）岩手県大船渡市「おおふなぼーと」

24日（火）福島県福島市「福島駅東口駅前広場」

25日（水）福島県いわき市「アクアマリンパーク」

内 容：「復興の火」展示・観覧を実施。ステージイベントは中止

(5) グランドスタート

日 程：3月26日（木）9時からの予定

場 所：福島県 ナショナルトレーニングセンター J ヴィレッジ

内 容：オープニング映像上映、聖火リレーアンバサダー入場など

児童等による合唱や福島県主催の地域文化パフォーマンスは中止

参加者：組織委員会、聖火リレーアンバサダー等の関係者のみ参加

一般の方の入場・観覧を中止

#### 4 シティキャスト・フィールドキャストの研修への対応

シティキャスト、フィールドキャストの安全安心を確保しながら、大会までに研修など必要な準備を終えられるよう取組を推進

(1) 研修における対応

- ・研修の会場に消毒液を設置
- ・こまめな手洗い等、基本的な感染症対策について説明

(2) 研修の延期

- ・2月22日以降に予定していた研修を5月以降に延期
- ・シティキャストについては、今後研修を受講する方を含め、3月中に正式に活動をお願いするお知らせを送付

#### 5 都主催の主な関係イベントにおける対応

(1) BEYOND STADIUM 2020（ビヨンドスタジアム 2020）

対 応：開催の中止

日 程：2月24日（月・祝）

場 所：駒沢オリンピック公園総合運動場

内 容：パラスポーツ観戦促進イベント

参加者：一般都民（来場予定2万人）

(2) 東京アクアティクスセンター完成披露式典

対 応：開催の延期

日 程：3月22日（日）

場 所：東京アクアティクスセンター

内 容：完成披露式典

参加者：関係者、一般都民（来場予定1千人）、メディア

## 6 I O Cによる大会延期を含めた検討にかかる発表（令和2年3月23日）の概要

- ・ I O Cは、関係者全員の健康を保護し、新型コロナウイルス感染症の封じ込めに貢献するため、東京大会のシナリオ検討を進めていく。
- ・ 日本では、聖火が歓迎され、関係者全員の健康を守りながら大会を開催できることへのI O Cの日本に対する信頼を高めている。
- ・ 一方、海外では感染が急速に増加していることから、I O Cはシナリオ検討を進める必要がある。
- ・ 大会の多くの会場が利用できなくなる可能性や、宿泊施設が予約されているなどの状況や、国際スポーツの競技日程を調整する必要があるなど、課題は多い。
- ・ I O Cは、組織委員会、日本政府、東京都との完全な協力とパートナーシップのもと、世界的な衛生状態が急速に進んでいることへの評価と大会への影響について、延期のシナリオを含めた詳細な議論を開始する。これらの議論が4週間以内に完了できると確信している。
- ・ 大会の中止はいかなる問題も解決せず、誰の助けにもならないことから、中止は議題にはない。

### <参考> 関係者等のコメント

- ・ I O C理事会声明（3月3日）  
「安全で安心な大会を開催するために取られている対策を評価し、支持します。」
- ・ I O Cの臨時理事会声明（3月17日）  
「I O Cは東京2020オリンピック競技大会に全面的にコミットし続けており、大会の4か月以上前のこの段階において抜本的な決定を行う必要はありません。」
- ・ G7首脳テレビ会議に関する安倍首相会見（3月17日）  
「オリンピックについては、人類が新型コロナウイルスに打ち勝つ証として、東京オリンピック・パラリンピックを完全な形で実現することについて、G7の支持を得たところでございます。」
- ・ 組織委員会コメント（3月17日）  
「東京2020組織委員会は、I O Cや国内外の関係機関の皆さまと緊密に連携し、本年7月の安全で安心な大会開催に向けて準備を進めてまいります。」
- ・ 知事答弁（3月13日予算特別委員会）  
「都といたしまして、引き続き事態の推移も注意しながら、国、組織委員会等の関係者と連携し、本年7月、安全で安心な大会の準備に万全を期していく」

**International Olympic Committee Press Release**

22 MAR 2020 (日本時間 3 月 23 日未明)

**Health and safety paramount as IOC Executive Board agrees to step up scenario-planning for the Olympic Games Tokyo 2020**

**To safeguard the health of all involved and to contribute to the containment of COVID-19, the Executive Board (EB) of the International Olympic Committee (IOC) today announced that the IOC will step up its scenario-planning for the Olympic Games Tokyo 2020.**

These scenarios relate to modifying existing operational plans for the Games to go ahead on 24 July 2020, and also for changes to the start date of the Games. This step will allow better visibility of the rapidly changing development of the health situation around the world and in Japan. It will serve as the basis for the best decision in the interest of the athletes and everyone else involved.

On the one hand, there are significant improvements in Japan where the people are warmly welcoming the Olympic flame. This could strengthen the IOC's confidence in the Japanese hosts that the IOC could, with certain safety restrictions, organise Olympic Games in the country whilst respecting its principle of safeguarding the health of everyone involved.

On the other hand, there is a dramatic increase in cases and new outbreaks of COVID-19 in different countries on different continents. This led the EB to the conclusion that the IOC needs to take the next step in its scenario-planning.

A number of critical venues needed for the Games could potentially not be available anymore. The situations with millions of nights already booked in hotels is extremely difficult to handle, and the international sports calendar for at least 33 Olympic sports would have to be adapted. These are just a few of many, many more challenges.

Therefore, further to the study of different scenarios, it would need the full commitment and cooperation of the Tokyo 2020 Organising Committee and the Japanese authorities, and of all the International Federations (IFs) and National Olympic Committees (NOCs). It would also require commitment from, and collaboration with, the Rights-Holding Broadcasters (RHBs) and our TOP Partner sponsors, as part of their continued and valued support to the Olympic Movement, as well as cooperation from all the Games' partners, suppliers and contractors. It is in this spirit of the Olympic stakeholders' shared commitment to the Olympic Games, and in light of the worldwide deteriorating situation, that the IOC EB has today initiated the next step in the IOC's scenario-planning.

The IOC will, in full coordination and partnership with the Tokyo 2020 Organising Committee, the Japanese authorities and the Tokyo Metropolitan Government, start detailed discussions to complete its assessment of the rapid development of the worldwide health situation and its impact on the Olympic Games, including the scenario of postponement. The IOC is confident that it will have

finalised these discussions within the next four weeks, and greatly appreciates the solidarity and partnership of the NOCs and IFs in supporting the athletes and adapting Games planning.

The IOC EB emphasised that a cancellation of the Olympic Games Tokyo 2020 would not solve any of the problems or help anybody. Therefore, cancellation is not on the agenda.

After the EB meeting, IOC President Thomas Bach today wrote to the global athlete community to provide them with an explanation of the IOC's approach.

In the letter, Bach stated once more that safeguarding the health of everyone involved and contributing to contain the virus is the fundamental principle, and said: "Human lives take precedence over everything, including the staging of the Games. The IOC wants to be part of the solution. Therefore we have made it our leading principle to safeguard the health of everyone involved, and to contribute to containing the virus. I wish, and we all are working for this, that the hope so many athletes, NOCs and IFs from all five continents have expressed will be fulfilled: that at the end of this dark tunnel we are all going through together, not knowing how long it is, the Olympic flame will be a light at the end of this tunnel."

※IOC ホームページより引用

"Health and safety paramount as IOC Executive Board agrees to step up scenario-planning for the Olympic Games Tokyo 2020" (参照日 : 2020 年 3 月 23 日)

<https://www.olympic.org/news/health-and-safety-paramount-as-ioc-executive-board-agrees-to-continue-scenario-planning-for-the-olympic-games-tokyo-2020>

## 健康と安全が再重要 IOC 理事会が東京 2020 オリンピック競技大会のシナリオ検討を進めることに合意

全ての関係者の健康を守り、新型コロナウイルスの封じ込めに貢献するため、IOC 理事会は、本日、東京 2020 オリンピックのシナリオ検討を進めると発表した。

これらのシナリオは、2020年7月24日開幕のための既存の大会運営計画の修正、また、大会の開幕日の変更に関わるものである。このステップは、世界と日本で急速に変化する衛生状況の可視化をより可能にし、選手と全ての関係者の利益において最善策を行うための基盤となる。

一方で、オリンピック聖火を人々が温かく歓迎している日本では、大きな改善がみられている。これは、全ての関係者の健康を守る原則を尊重しつつ、一定の安全に関する制約のもと、オリンピック競技大会は日本で開催できると、IOC は日本の開催に対する自信を一層強めている。

他方で、新型コロナウイルスの感染者数は急速に増加し、新たな流行が様々な大陸、様々な国々で起きている。そのため、理事会は、IOC がシナリオの検討において次のステップに進む必要があるとの結論に至った。

大会に必要ないくつかの重要な会場がもはや使用できないかもしれない。非常に多くの泊数分のホテルが予約されている状況への対処は難しく、少なくとも 33 競技の国際スポーツカレンダーも調整が必要になるだろう。これらは数多くの課題のいくつかに過ぎず、他にも数多くの課題がある。

そのため、様々なシナリオの詳細な検討には、東京 2020 組織委員会、日本政府、全ての IF、NOC の完全なコミットメントと協力が必要である。また、全ての大会パートナー、サプライヤー、コントラクターと合わせて、放送権者（RHB）や TOP パートナーについても、オリンピックムーブメントへの継続的な価値ある支援の一環として、コミットメントと協調が必要となる。これはオリンピックステークホルダーが共有しているオリンピック競技大会に対するコミットメントの精神である。そして、この世界規模で状況が悪化している中、IOC 理事会は、本日、IOC のシナリオ検討の次のステップに着手した。

IOC は、東京 2020 組織委員会、日本政府、そして東京都との完全な協力とパートナーシップのもと、世界の衛生状況に関する急速な展開とオリンピック競技大会への影響の評価を完了すべく詳細な議論をスタートする。延期のシナリオも含む。IOC は、これらの議論が今後 4 週間以内に終了することに自信を持っており、選手を支援し大会計画を修正するにあたり、NOC と IF の連帯とパートナーシップに大いに感謝している。

IOC 理事会は、東京 2020 大会の中止はいかなる問題も解決せず、誰の助けにもならないことを強調した。そのため、中止は議題にはない。

理事会後、IOC トーマス・バッハ会長は、IOC のアプローチに関して説明するため、世界のアスリートコミュニティに対して書簡を送った。

書簡の中で、バッハ会長は、全ての関係者の健康を守り、ウイルスの封じ込めに貢献することが大原則であると改めて述べている。「人命は、大会の開催を含め全てに優先される。IOC は解決の一助になりたい。そのため、全ての関係者の健康を守り、ウイルスの封じ込めに貢献することを重要な原則として掲げている。私が願い、そして私たちすべてが取り組んでいる目的は、全五大陸の多くのアスリート、NOC および IF が示す希望がかなえられることだ。つまり、どれくらいの長さか分からないが、私たちが共に通過しているこの暗いトンネルを抜けた先に、オリンピック聖火が灯っていることである。」

※IOC プレスリリースをオリンピック・パラリンピック準備局が参考和訳

“Health and safety paramount as IOC Executive Board agrees to step up scenario-planning for the Olympic Games Tokyo 2020” (参照日：2020 年 3 月 23 日)

<https://www.olympic.org/news/health-and-safety-paramount-as-ioc-executive-board-agrees-to-continue-scenario-planning-for-the-olympic-games-tokyo-2020>